

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和4年度12月号

○ 概要

- (1) 令和4年度12月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,137億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+2.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,730円（伸び率▲2.5%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,898億円（伸び率+7.4%）薬剤料が5,225億円（伸び率+0.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,029億円（伸び率▲0.6%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,654円（伸び率▲4.4%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.79種類（伸び率+0.0%）、28.3日（伸び率▲1.7%）、72円（伸び率▲2.8%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,148億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+13億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の746億円（伸び幅▲1億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+138億円（総額274億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,148億円 (+13億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (746億円)	21 循環器官用薬 (646億円)	11 中枢神経系用薬 (584億円)
0歳以上 5歳未満	22.6億円 (▲1.3億円)	44 アレルギー用薬 (8.1億円)	22 呼吸器官用薬 (4.8億円)	61 抗生物質製剤 (2.9億円)
5歳以上 15歳未満	91.8億円 (+1.6億円)	44 アレルギー用薬 (32.0億円)	11 中枢神経系用薬 (28.0億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (7.4億円)
15歳以上 65歳未満	1,525億円 (+37億円)	11 中枢神経系用薬 (291億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (285億円)	21 循環器官用薬 (202億円)
65歳以上 75歳未満	940億円 (▲45億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (201億円)	21 循環器官用薬 (166億円)	42 腫瘍用薬 (155億円)
75歳以上	1,568億円 (+21億円)	21 循環器官用薬 (274億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (251億円)	42 腫瘍用薬 (188億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,730円（伸び率▲2.5%）で、最も高かったのは北海道（11,805円（伸び率+0.4%））、最も低かったのは佐賀県（8,171円（伸び率▲2.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは岩手県（伸び率+1.2%）、最も低かったのは高知県（伸び率▲7.0%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	83.9 %	+2.1 %
薬剤料ベース	19.7 %	▲0.2 %
後発品調剤率	80.4 %	+2.2 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.3 %	+0.6 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲0.6 %	+15.4 % (20歳以上 25歳未満)	▲7.3 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	28.1 % (0歳以上 5歳未満)	11.3 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	83.9 %	88.4 % (100歳以上)	79.5 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	876 億円 (▲6 億円)	21 循環器官用薬 (265 億円)	11 中枢神経系用薬 (159 億円)	23 消化器官用薬 (95 億円)
0歳以上 5歳未満	9.0 億円 (+0.3 億円)	44 アレルギー用薬 (4.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.0 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	16.8 億円 (+0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (9.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)
15歳以上 65歳未満	305 億円 (+7 億円)	21 循環器官用薬 (76 億円)	11 中枢神経系用薬 (70 億円)	44 アレルギー用薬 (32 億円)
65歳以上 75歳未満	196 億円 (▲15 億円)	21 循環器官用薬 (74 億円)	11 中枢神経系用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (23 億円)
75歳以上	350 億円 (+1 億円)	21 循環器官用薬 (115 億円)	11 中枢神経系用薬 (61 億円)	23 消化器官用薬 (46 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,403 円	1,838 円(北海道)	1,158 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲5.3%	▲2.4 % (青森県)	▲9.0 % (熊本県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	83.9 %	90.5 % (沖縄県)	80.2 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	23.5 % (鹿児島県)	17.2 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.4 %	85.9 % (沖縄県)	76.0 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.3 %	67.4 % (沖縄県)	55.6 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度12月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。